

# 国内出荷、海外出荷ともに低下し、 2期連続の低下となった 日系製造業のグローバル出荷

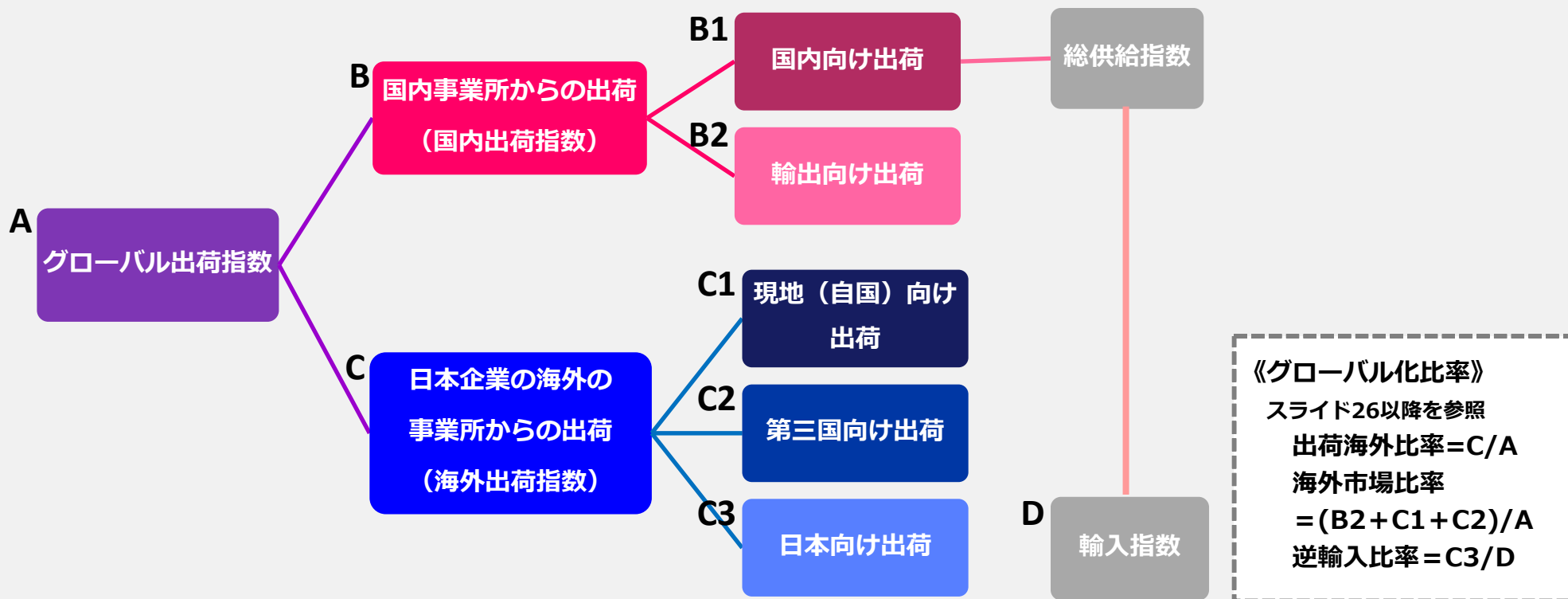
グローバル出荷指数  
2019年第Ⅱ期  
(2015年基準)

2019年10月  
経済解析室



# グローバル出荷指数とは？

- 製造業のグローバル展開を踏まえ、日系製造業の動向を内外一元的に捉えようとした指標。
- 日系製造業の動向を事業所ベースで捉えることとし、「鉱工業出荷内訳表・総供給表」と「海外現地法人四半期調査」の組合せにより、**海外生産（出荷）比率等**を試算し作成。



## 2019年第Ⅱ期のグローバル出荷指数のまとめ

- ・ 2019年第Ⅱ期のグローバル出荷指数は、前期比マイナス0.4%と2期連続の低下となった。
- ・ 国内出荷は前期比マイナス0.4%と2期連続の低下、海外出荷は同マイナス0.2%と4期連続の低下。
- ・ 業種別のグローバル出荷では、汎用・生産用・業務用機械工業の前期比はマイナス1.8%と2期連続の低下となったほか、化学工業、それ以外の業種計も低下。一方、輸送機械工業、電気機械工業は上昇。
- ・ 地域別海外出荷では、ASEAN4、北米の前期比は低下。一方、それ以外の地域は上昇。中国(含香港)は横ばい。
- ・ グローバル化比率(季節調整済)では、出荷海外比率、海外市場比率は前期より低下、逆輸入比率は前期より上昇。

# 注意点

- ・ 製造業グローバル出荷指数は、国内、海外における製造業の実態を事業所ベース(事業所概念、品目概念)で捉えている。ここで使用している海外現地法人四半期調査は企業ベースの調査結果ではあるものの、便宜的に海外現地における事業活動が主産業の活動に特化しているものとして、製造業の活動を事業所ベースとして捉え、試算したものである。
- ・ グローバル出荷指数の最新期の試算時に、
  - ・ 使用するデータが速報値から確報値に塗り替えられること
  - ・ 季節調整をかけ直していることまた、2018年公表時に、基準改定(2010年基準→2015年基準)を行ったことなどから、過去に提供したグローバル出荷指数の数値と、今回計算し直した数値には、違いが生じることに留意。
- ・ グローバル出荷指数における国内出荷と鉱工業出荷内訳表の出荷指数の値とも一致しないことに留意。
- ・ 2015年基準の指数値は2013年 I 期より作成。

## 用語の説明

- グローバル出荷指数における「汎用・生産用・業務用機械」は、鉱工業指数における、汎用機械、生産用機械、業務用機械を合わせたものに相当する。また、「電気機械」は、鉱工業指数における、電子部品・デバイス、電気機械、情報通信機械を合わせたものに相当する。
- 「それ以外の業種計」とは、次の8業種を組み合わせたものである。「食料品・たばこ」、「繊維」、「木材・パルプ・紙・紙加工品」、「窯業・土石製品」、「鉄鋼」、「非鉄金属」、「金属製品」、「その他」
- 「ASEAN4」とは、次の4か国を組み合わせたものである。「マレーシア」、「タイ」、「インドネシア」、「フィリピン」
- 「それ以外の地域」とは、次の4地域を組み合わせたものである。「NIEs3」（シンガポール、台湾、韓国）、「その他アジア」、「欧州」、「その他」

# こちら是非御覧下さい！

◎ミニ経済分析：色々なテーマあります

動きの見える経済指標など、  
ひと言解説、ミニ経済分析、



ぜひお手持ちの電話で  
QRコードを読み取って  
下さい！！

**【問合せ先】**

ご不明な点はコチラにお問合せください。

経済産業省 大臣官房 調査統計グループ 経済解析室

電話：03-3501-1644(直通)

FAX：03-3501-7775

E-MAIL：[qqcebc@meti.go.jp](mailto:qqcebc@meti.go.jp)